

番号	氏名	抱負
241	村上 誠一	近年、放射線の医学への応用は医療技術の進歩と医療機器の開発に伴い高度化かつ専門化し、本学会の果たす役割はますます重要となっています。今後、本学会が医療技術の発展のための研究促進の場や情報発信源となると共に国際的な学会になるよう尽力したいと考えています。
242	村中 良之	私は中部部会理事を務めています。地方の会員には新しい技術、学会などの情報収集が難しいとの声が聞かれます。地方会員にも最新情報が行きわたるような学会になっていただきたいと思っています。学会には技師会と違い学生を会員になることができます。学生会員を増やしてもっと地方の学術大会でも発表や参加し易い環境にさせていただきたいと思います。会のために微力ながらも貢献して参りますので、よろしく願いいたします。
243	村松 千左子	私は金沢大学の放射線科学技術専攻を卒業後、シカゴ大学大学院に進み医学物理学講座で博士号を取得した。現在は岐阜大学大学院医学系研究科で研究を行っている。多くの学会会員と異なり放射線技師として働いた経験はほとんどなく、現在も医学と工学の融合的分野で研究を行っているが、国際学会での発表や論文執筆などの経験はある程度持っているので、別の視点から学会の発展にぜひ貢献したいと考えている。
244	森 光一	「医学物理学・放射線技術学」が日本学術振興会から正式な研究領域として新設された今、異分野との対等共同研究における放射線技術応用の可能性を積極的に探求し、その複合的技術融合による新研究領域の提案を通して本学会が先進的新分野技術開発の論戦の場となり、放射線技術の社会的貢献度がさらに高めていけるよう微力ながら尽力したい。
245	杜下 淳次	公益社団法人日本放射線技術学会が学術団体として適正な運営がなされることを念頭に、諸事項を検討・決議したいと考えます。
246	森島 貴顕	このたび代議員に立候補いたしました東北薬科大学病院の森島貴顕です。先輩技師から代議員という制度があることを知り、今回初めて申請します。これまで心カテ時における被曝低減、看護職員に対する放射線教育等の研究に携わり、学会発表や論文投稿を行いました。また国際研究集会派遣会員として助成を受けRSNAにて研究発表しました。これらの経験を生かし、これからも被曝低減に貢献したいと考えております。
247	八重樫 祐司	私は現在、放射線治療分科会の委員として日本放射線技術学会の活動にたずさわっております。これら分科会の活動等により、分野ごとの学術レベルは確実に向上していると思います。しかしながら、最終的な共通目標は放射線診断精度と治療成績の向上であり、そのためには各専門分野が密接にリンクし学会活動を行うことが重要と考えます。日本放射線技術学会の発展に向けて皆様と考えていきたいと思っています。
248	安田 浩司	平成5年に現職場に入職以来、日本放射線技術学会会員として北海道部会学術大会を中心に参加してまいりました。ここ数年、部会専門委員、理事として部会学術大会の企画運営に携わらせていただいております。今後の活動として地方会員の意見や若い会員のさらなる技術向上の場を設けるなど微力ではありますが技術学会のさらなる発展に寄与したく、代議員に立候補いたしました。よろしく願いいたします。
249	梁川 功	
250	梁川 範幸	私は関東部会理事を2期務めました。学術委員としてCTGUMの代表も兼務しています。関東部会のCT技術の向上はもちろん、放射線撮影領域、放射線治療領域に微力ですが企画運営に携わり、会員に皆様に少しでも参加していただき、情報提供していく所存です。関東部会はまだまだ発展途上です。若い会員にも参加し易い環境を作り、部会長、他の理事の皆様と協力し関東部会を盛り上げていきたいと思っています。